

ほしがり

お父さんのもの

お母さんのもの

お爺ちゃんお婆ちゃん

はては誰のだから

分からないものにまで

ぐりぐりと名前を書いて

「わたしのものよ」

舌足らずに主張する

あなた

庭で花火をした夏の夜

たどたどしくも

妙に真面目な顔つきで

暗い地面に名前を刻んでいたっけ

地球まるごと手に入れるのかい？

訊ねてみれば

何故だかちよっと不満そう

「ほんとはね、

うちゅうのぜんぶがほしいの」

あなたがいつか

もっと大きくなったら

ロケットに乗って

きらきらした星々を旅して

立派な名前を書いてくるのかな

もう夜も遅くなったね

おやすみ